2021 年度版

第二大阪警察病院
内科専門研修プログラム

Daini Osaka Police Hospital

2021 年度版 第二大阪警察病院内科専門研修プログラム

《目次》

1. 理念・使命・特性……2
2. 募集専攻医数……3
3. 専門知識・専門技能とは……3
4. 専門知識・専門技能の習得……3
5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス……7
6. リサーチマインドの養成……7
7. 学術活動に関する研修……7
8. コア・コンピテンシーの研修……8
9. 地域医療における施設群……8
10. 地域医療に関する研修……9
11. 内科専攻医研修の概要……9
12. 専攻医の評価時期と方法……11
13. 内科専門研修プログラム管理委員会の運営……13
14. 内科専門研修プログラムの改善方法……14
15. 専攻医の募集および採用の方法……14
16. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件…15

第二大阪警察病院内科専門研修プログラム施設群の各病院概要……16
1）専門研修基幹施設 ……17
2）専門研修連携施設 ……18
大阪医療センター ……18
大阪急性期・総合医療センター ……20
大阪警察病院 ……21
大阪大学医学部附属病院 ……22
大阪南医療センター ……23
河内総合病院 ……24
近畿中央病院 ……25
多根総合病院 ……26
西宮病院……27
日本生命病院 ……28
森之宮病院 ……29

別表１ 第二大阪警察病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標……31
第二大阪警察病院内科専門研修プログラム管理委員会委員リスト ……32
専攻医研修マニュアル ……33
指導医マニュアル ……42

1.理念・使命・特性

理 念

本プログラムは、臓器別の内科系Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力である基本的臨床能力、すなわち、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムを修得し、リサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を獲得した内科専門医を養成することを目指します。

使 命

内科専門医として、１）高い倫理観を持ち、２）最新の標準的医療を実践し、３）安全な医療を心がけ、４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できることを目指し、生涯にわたって常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し最善の医療を提供できるように努力する姿勢を身につけ、さらに疾病の予防から治療に至る保健・医療活動や将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる、そのような研修を行います。

特 性

本プログラムは、大阪府大阪市医療圏の中心的な急性期病院の一つとして地域医療を支える第二大阪警察病院を基幹施設として、大阪府大阪市医療圏、近隣医療圏とで内科専門研修を行います。基本的な研修パターンは基幹施設研修１年間＋連携施設1年間＋基幹施設研修１年間の3年間となります。

専門研修後の成果

内科専門医の使命は、１）高い倫理観を持ち、２）最新の標準的医療を実践し、３）安全な医療を心がけ、４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、１）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）、２）内科系救急医療の専門医、３）病院での総合内科医（Generality）、４）総合内科的視点を持った専門医（Subspecialist）など多様な役割を担うことになります。

本プログラムの研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムとGeneralなマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材となります。また、希望者はSubspecialty領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることもできます。

2.募集専攻医数

本プログラムで募集する内科専攻医数は、１学年**4**名とします。

3.専門知識・専門技能とは

習得すべき専門知識や専門技能は内科学会が定めた研修カリキュラムに基づきます（下記参照）。総合内科I（一般）、総合内科II（高齢者）、総合内科III（腫瘍）、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の**15領域**から構成されています。それぞれ達成度の指標となる到達レベルが**A**、**B**、**C**というグレードとして設けられています。なお、各項目の達成度をより明確にするため、到達レベルのグレードは**「知識」**、**「技術・技能」**、**「症例」**として分類されています。

内科研修カリキュラム項目表

http://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2015/08/2015-curriculum.pdf

研修手帳（疾患群項目表）

http://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2015/08/2015-log.pdf

技術・技能評価手帳

http://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2015/08/2015-gijutsu.pdf

4.専門知識・専門技能の習得

１）到達目標

主担当医として研修手帳に定める全**70疾患群**、**200症例以上**、最低でも**56疾患群以上**の経験と計**160症例以上**を経験し、担当指導医の評価承認のもと日本内科学会専攻医登録評価システム（以下「J-OSLER」という。）にその研修内容を登録し、専門研修修了に必要な**29症例**の病歴要約をすべて記載し、査読の上受理されること。

○ 専門研修（専攻医）１年目

- 内科系5診療科（アレルギー膠原病、血液、腎臓、代謝内分泌、呼吸器）を**2ヶ月**ずつローテートしながら、基本領域の研修を当院で行います。少なくとも**20疾患群**、**60症例以上**の症例を経験し専門研修修了に必要な病歴要約を**10症例以上**記載しJ-OSLERに登録します。

- 診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、上級医とともに行うことができます。
- 専攻医自身の自己評価と指導医、上級医およびメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。
- サブスペシャルティー重点2年型を目指す者は、初年度11月に症例経験を点検し、2年目終了時の目標（通算で少なくとも**45疾患群**、**120症例以上**の症例を経験し、専門研修修了に必要な病歴要約を提出）がすでに達成できている、もしくは2年目Subspecialty以外の研修が3ヶ月であっても達成できる見込みがあると担当指導医が判断することが必要です。

○ 専門研修（専攻医）２年目

- 初年度に研修が十分でなかった領域を中心に最短3ヶ月単位で連携施設において研修を行います。
- 通算で少なくとも**45疾患群**、**120症例以上**の症例を経験し、専門研修修了に必要な**29症例**の病歴要約をすべて記載し、J-OSLERにその研修内容を登録します。
- 診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、上級医の監督下に自分で行うことができます。
- 専攻医自身の自己評価と指導医、上級医およびメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善が図られたか否かを指導医がフィードバックします。
- サブスペシャルティー重点2年型を目指す場合は、連携施設での3ヶ月の基本領域の研修が終了した時点で最終目標（通算で最低**56疾患群以上**の経験と計**160症例以上**の症例経験し、専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載）の達成が困難であると判断された場合は標準タイプまたはサブスペシャルティー重点1年型の研修への変更を促します。
- 2年目研修終了時点で最終目標（通算で最低**56疾患群以上**の経験と計**160症例以上**の症例を経験し、専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載）が達成可能であると担当指導医が判断した場合は3年目に希望があれば1年間サブスペシャルティ―重点1年型の並行研修を行うことができます。

○ 専門研修（専攻医）３年目

- サブスペシャルティー重点研修（1年型、2年型）では１年間Subspecialtyの並行研修を当院にて行います。Subspecialtyの並行研修の希望がない場合は希望の領域の研修を当院にて行います。
- 担当医として全**70疾患群**を経験し、**200症例以上**経験することを目標とします。　修了認定には、主担当医として通算で最低**56疾患群以上**の経験と計**160 症例以上**（外来症例は**1割**まで含むことができます）を経験し、J-OSLERにその研修内容を登録します。
- 専攻医として適切な経験と知識の修得ができ、内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができることを担当指導医が確認します。
- 登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受け、査読者の評価により改訂します。
- 専攻医自身の自己評価と指導医、上級医およびメディカルスタッフによる360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。過去の評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

２）臨床現場での学習

内科領域**70**疾患群の診療（下記①～⑥）を順次経験することによって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇することが稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

①	担当指導医もしくはSubspecialtyの上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を行います。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、一人一人の患者の社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
②	定期的に開催するカンファレンスにおける症例提示を通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
③	総合内科外来（初診を含む）とSubspecialty診療科外来（初診を含む）を少なくとも週1回、1年以上担当医として経験を積みます。
④	内科二次救急担当（平日）で内科領域の救急診療の経験を積みます。
⑤	当直医として病棟急変などの経験を積みます。
⑥	必要に応じて、Subspecialty診療科検査を担当します。

３）臨床現場を離れた学習

臨床現場を離れた学習として、１）内科領域の救急対応、２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、３）標準的な医療安全や感染対策に関する事項、４）医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、５）専攻医の指導・評価方法に関する事項、などを以下の方法で研鑽します。

①	各診療科での**抄読会**	
②	**医療倫理/医療安全、および感染防御に関する講習会**	（年２回以上受講）
③	**CPC**（臨床病理検討会）	（年２回以上参加）
④	**研修施設群合同カンファレンス**	（年２回以上参加）
⑤	**地域参加型のカンファレンス**	（年２回以上参加）
⑥	**JMECC受講**	（３年間で１回以上参加）
⑦	**内科系学術集会**	（必ず年２回参加し、３年間の研修期間を通して２回以上の学会（または論文）発表を筆頭演者として行う。）

４）自己学習

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

①	内科系学会が行っているセミナーのDVD やオンデマンドの配信
②	日本内科学会雑誌にあるMCQ
③	日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

５）研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

J-OSLERを用いて、以下をweb ベースで日時を含めて記録します。

①	専攻医は全**70**疾患群の経験と**200症例以上**を主担当医として経験することを目標に、通算で最低**56疾患群以上160症例**の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
②	専攻医による逆評価を入力して記録します。
③	全**29症例**の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
④	専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
⑤	専攻医は専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である第二大阪警察病院の臨床研修医指導センターが把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。

6.リサーチマインドの養成

単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢が内科専攻医に求められています。基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養するために、患者から学ぶという基本姿勢のもと、科学的な根拠に基づいた診断、治療（EBM; evidence based medicine）を行います。そのために最新の知識、技能を常にアップデート（生涯学習）するのみならず、診断や治療のevidence の構築・病態の理解につながる研究に積極的に関与し、症例報告を通じて深い洞察力を磨きます。

加えて、教育活動として初期研修医あるいは医学部学生や後輩専攻医、メディカルスタッフの指導を行います。

7.学術活動に関する研修

以下の①～⑤を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

①	内科系の学術集会や企画に**年2回以上**参加します。（必須） ※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系Subspecialty学会の学術講演会・講習会を推奨します。
②	経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
③	臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
④	内科学に通じる基礎研究を行います。
⑤	内科専攻医は学会発表（または論文）発表を筆頭者として**2件以上**行います。

8. コア・コンピテンシーの研修

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得するために下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。

①	患者とのコミュニケーション能力
②	患者中心の医療の実践
③	患者から学ぶ姿勢
④	自己省察の姿勢
⑤	医の倫理への配慮
⑥	医療安全への配慮
⑦	公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧	地域医療保健活動への参画
⑨	他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩	後輩医師への指導

9. 地域医療における施設群

第二大阪警察病院内科専門研修施設群は、大阪府大阪市医療圏および近隣医療圏の医療機関から構成されます。 各連携施設は、以下の通りです。

施設類型	施設名		
基幹施設	第二大阪警察病院		
連携施設	大阪市内（6施設）	大阪市外（3施設）	他県（兵庫県2施設）
	大阪医療センター（中央区）	大阪大学医学部付属病院（吹田市）	近畿中央病院（伊丹市）
	大阪急性期・総合医療センター（東住吉区）	大阪南医療センター（河内長野市）	西宮病院（西宮市）
	大阪警察病院（天王寺区）	河内総合病院（東大阪市）	
	多根総合病院（西区）		
	日本生命病院（西区）		
	森之宮病院（城東区）		

10. 地域医療に関する研修

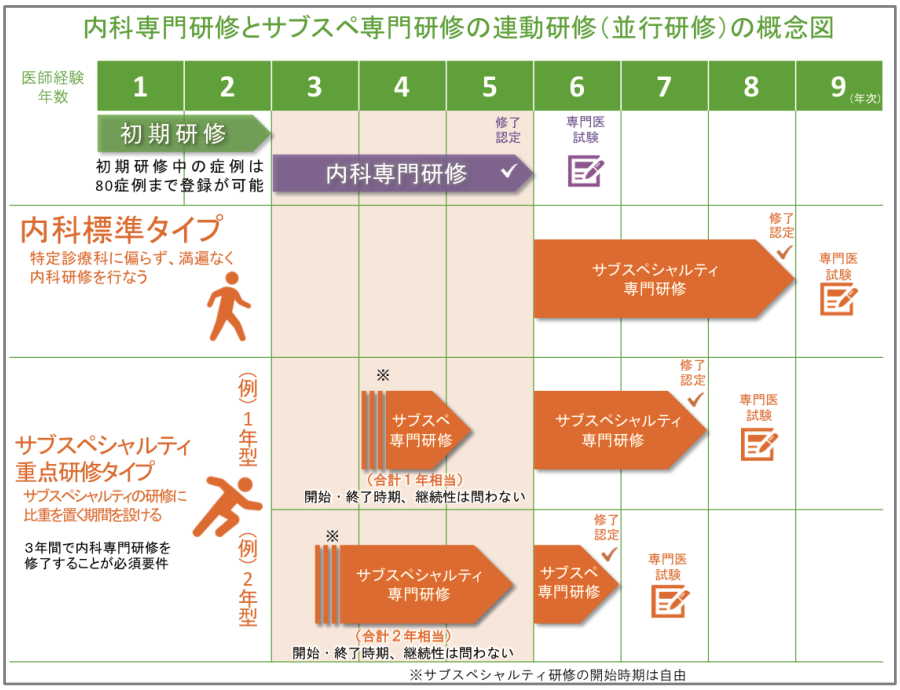
本プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

主担当医として診療・経験する患者を通じて、特定機能病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。包括ケア病棟においては、地域から急性期での入院だけでなく、その後の在宅復帰を目指す診療や、老健施設などへの実際的な連携を経験できます。

大阪警察病院付属の人間ドッククリニックでは、企業および地域住民の、人間ドック、健康診断を行っています。このような施設との連携を通じて地域の患者集団よりの健康増進や予防医療などの介入の実際を経験することができます。

11. 内科専攻医研修の概要

現在、内科基本領域とSubspecialty領域との連動研修（並行研修）を行うことが認められています。当院では内科標準タイプの研修だけでなく、サブスペシャルティー重点研修タイプ（１年型、２年型）の研修にも対応します。



標準タイプの研修

１年目は基本領域研修として２ヶ月ずつ当院の内科系５診療科（アレルギー・膠原病、血液、腎臓、内分泌・代謝、呼吸器）にて研修を行い、２年目は１１連携施設より診療科を選び最短３ヶ月ずつの研修を行います。３年目は内科系５診療科の中から自由に選択して研修を行います。３年目は希望するサブスペシャルティーの診療科で１年間並行研修を行います。

研修途中で希望するサブスペシャルティーの診療科がでた場合はサブスペシャルティー重点１年型タイプに変更し３年目は希望するサブスペシャルティーの診療科で１年間並行研修を行うこともできます。

サブスペシャルティー重点研修タイプ（１年型）の研修

１年目は基本領域研修として２ヶ月ずつ当院の内科系５診療科（アレルギー・膠原病、血液、腎臓、内分泌・代謝、呼吸器）にて研修を行い、２年目は１１連携施設より診療科を選び最短３ヶ月ずつ研修を行います。３年目は希望するサブスペシャルティーの診療科で１年間並行研修を行います。なお、サブスペシャルティー研修を２年目に行えば、連携施設での研修は、３年目に行うこともできます。

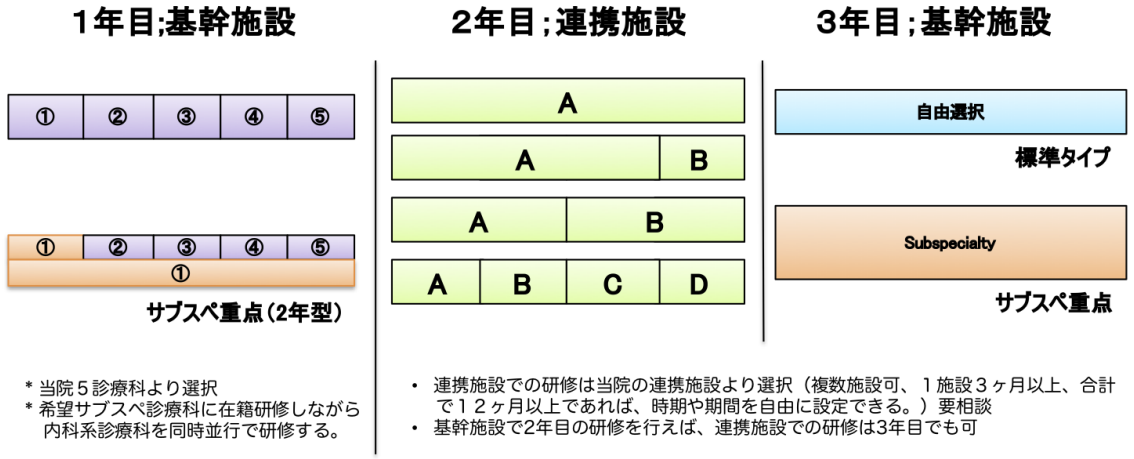
サブスペシャルティー重点研修タイプ（２年型）の研修

１年目は当院において希望するサブスペシャルティーの診療科に所属しながら、それ以外の内科系診療科にて並行して（各診療科1～２ヶ月、希望に応じて調整）研修を行い、症例を経験します。２年目は１１連携施設より診療科を選び最短３ヶ月ずつ研修を行い、症例を経験します。３年目は当院において希望するサブスペシャルティー診療科にて通年研修を行います。ただし、１年目終了時に十分な基本領域の症例経験が行えそうにないと判断された場合には、希望するサブスペシャルティーの診療科に所属しながら、経験が不足する領域の診療科にても研修を並行して行います。

研修タイプの途中変更

本プログラムでは、研修開始時に研修タイプを決定することなく研修の進捗状況に応じて途中で内科標準型、サブスペシャルティー重点１年型、サブスペシャルティー重点２年型にシームレスに変更することができます。ただし、研修目標達成が困難と判断された場合、担当指導医と相談し、サブスペシャルティー重点ではない研修タイプに変更することがあります。

研修イメージ



連携施設での研修について

研修２年目は連携施設での研修となります。初年度の終わりに２年目の研修先を決定します。連携施設での研修は連携施設との話し合いとなります。なお、日本専門医機構/日本内科学会の指示により、非シーリング地域（大阪府以外）の連携病院での研修を２０％以上が義務化される可能性がありますので、希望しない場合でも非シーリング地域での研修お願いする場合があります。また各連携病院での受け入れ人数には限りがありますので、希望の時期に希望の連携施設での研修ができない場合があります。ここで一度決めた連携施設での研修は原則的に途中で変更することはできません。

12. 専攻医の評価時期と方法

（１）第二大阪警察病院総合内科（臨床研修医指導センター）の役割

- 第二大阪警察病院 内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を担います。
- 経験した疾患についてJ-OSLERを基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- 3か月ごとにJ-OSLERにて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡します。
- 6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡します。
- 6か月ごとに所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 年に複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。
- 年に複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）メディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を行います。

（2）専攻医と担当指導医の役割

- 専攻医1人に1人の担当指導医（メンター）が内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。
- 専攻医はweb にてJ-OSLERにその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。
- 専攻医は、1年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める**70疾患群**のうち最低**20疾患群**、**60症例以上**の経験と登録を行うようにします。2年目専門研修終了時に**70疾患群**のうち最低**45疾患群**、**120症例以上**の経験と登録を行うようにします。3年目専門研修終了時には**70疾患群**のうち最低**56疾患群**、**160症例以上**の経験の登録を終了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り研修の進捗状況を把握します。
- 担当指導医はSubspecialty上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 専攻医は、専門研修（専攻医）2年終了時までに**29症例**の病歴要約を順次作成し、 J-OSLERに登録します。担当指導医は内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように指導を行います。

（3）評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに当院の内科専門研修プログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

（4）修了判定基準

担当指導医は、J-OSLERを用いて研修内容を評価し、以下ｉ)～vi)の修了を確認します。

i	主担当医として主担当医として通算で全**70疾患群**を経験し、計**200症例以上**、最低でも**56疾患**群以上の経験と計**160症例以上**の症例（外来症例は登録症例の**1割**まで可）経験がJ-OSLERに登録済み。
ii	**29病歴要約**の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）
iii	筆頭者としての学会発表または論文発表（**2件以上**）
iv	JMECC 受講
v	プログラムで定める講習会受講
vi	メディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性に問題がないこと。

当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約1か月前に内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

13. 内科専門研修プログラム管理委員会の運営

当院の臨床研修医指導センターに置かれた内科専門研修プログラム管理委員会（以下「プログラム管理委員会」という。）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年９月と２月に開催します。

第二大阪警察病院内科専門研修プログラム管理委員会委員リスト

（令和２年４月現在）

第二大阪警察病院

小牟田　清	（病院長）
緒方　篤	（プログラム統括責任者、委員長、アレルギー・膠原病分野責任者）
橋本　久仁彦	（内分泌・代謝分野責任者）
佐多　弘	（血液内科分野責任者）
金子　哲也	（腎臓分野責任者）
南　誠剛	（呼吸器分野責任者）
錦織　貴之	（事務局代表、臨床研修医指導センター事務担当）

連携施設担当委員

大阪医療センター	三田　英治
大阪急性期・総合医療センター	林　晃正
大阪警察病院	尾下　正秀
大阪大学医学部附属病院	朝野　仁裕
大阪南医療センター	大島　司郎
河内総合病院	林　英宰
近畿中央病院	上道　知之
多根総合病院	白石　翔一
西宮病院	楢原　啓之
日本生命病院	立花　功
森之宮病院	北田　修

オブザーバー

内科専攻医代表	＜未定＞

14. 内科専門研修プログラムの改善方法

研修プログラムの改善のためJ-OSLERを用いて無記名式逆評価を年に複数回行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会（以下「内科領域研修委員会」という。）を相談先とします。担当指導医、施設の内科研修委員会、プログラム管理委員会、および内科領域研修委員会はJ-OSLERを用いて専攻医の研修状況を定期的にモニターし、第二大阪警察病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか、担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかなどを判断して自律的な改善に役立てます。状況によって、内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れます。また研修プログラムに対する内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ、必要に応じて研修プログラムの改良を行います。研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について内科領域研修委員会に報告します。

15. 専攻医の募集および採用の方法

プログラム管理委員会は、websiteでの公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、第二大阪警察病院のwebsiteの募集要項に従って、専攻医登録システムにより応募します。書類選考および面接を行い、プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に通知します。第二大阪警察病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なくJ-OSLERにて登録を行います。

問い合わせ先:

第二大阪警察病院　内科プログラム統括責任者 ： 緒方　篤
(E-mail: ogata@oph.gr.jp)

〒543-8922
大阪市天王寺区烏ヶ辻2-6-40
ＴＥＬ ：06-6773-7111　（代表）内線 7051 呼出　研修担当：錦織
受　付：月曜日～金曜日（8：30～17：00）但し、祝日を除く
E-mail：daini-jinji-ml@oph.gr.jp
H　P ：https://www.oph-2.jp/medical/bosyu/rinsyokensyui.html

16. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切にJ-OSLERを用いて第二大阪警察病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから第二大阪警察病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から第二大阪警察病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに第二大阪警察病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、 J-OSLERへの登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム修了要件を満たしており、かつ休職期間が4ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1日8時間、週5日を基本単位とします）を行うことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

第二大阪警察病院内科研修施設群の各病院概要

表１．研修施設の概要　（平成30年度 日本内科学会教育施設年次報告書より）

施設類型	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹	第二大阪警察病院	341	147	6	12	10	6
連携	大阪医療センター	692	200	9	31	22	11
連携	大阪急性期・総合医療センター	865	265	9	33	21	25
連携	大阪警察病院	580	218	5	32	20	13
連携	大阪大学医学部附属病院	1086	272	10	110	172	8
連携	大阪南医療センター	430	263	12	42	24	5
連携	河内総合病院	350	130	3	6	4	1
連携	近畿中央病院	445	162	8	21	14	9
連携	多根総合病院	304	105	6	11	2	6
連携	西宮病院	400	125	8	19	10	4
連携	日本生命病院	350	151	6	20	13	5
連携	森之宮病院	355	63	4	10	4	2

表２．各研修施設の内科13領域の研修の可能性

領域 / 病院名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
第二大阪警察病院	○	×	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×
大阪医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
大阪急性期・総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪警察病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○
大阪大学医学部附属病院	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△
大阪南医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○
河内総合病院	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
近畿中央病院	△	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
多根総合病院	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
西宮病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本生命病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
森之宮病院	○	○	○	×	×	×	○	×	○	×	×	○	○

各研修施設での内科13領域における診療経験の研修可能性の3段階（○、△、×）に評価しました。<○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない>

1）専門研修基幹施設

第二大阪警察病院

開設者	医療法人警和会
住所	〒543-8922 大阪市天王寺区烏ヶ辻2-6-40
認定基準【整備基準23】 1)専攻医の環境	・　初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・　研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・　第２大阪警察病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・　メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。 ・　セクシャルハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ・　女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・　併設する託児施設への紹介が可能です。 ・　病児保育施設への紹介が可能です。
認定基準【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	・　指導医は7名(2020年4月現在)在籍しています（下記）。 ・　内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者緒方篤；）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・　基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修医指導センターを設置します。 ・　医療安全（9/18、11/8、12/24、2/20）・感染対策講習会（7/16、8/20、8/21）を定期的に開催（2019年度実績7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　CPC を定期的に開催（2019年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　地域参加型のカンファレンス（生活習慣病ﾌｫｰﾗﾑ、市民公開講座、医療連携講演会、膠原病・ﾘｳﾏﾁ教室；など2019年度実績8回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・　カリキュラムに示す内科領域13分野のうち10分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・　70疾患群のうち56疾患群について当院で研修できます（上記）。 ・　専門研修に必要な剖検（2019年度実績13体）を行っています。
認定基準【整備基準23】 4)学術活動の環境	・　臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・　倫理委員会を設置し定期的に開催（2019年度実績6回）しています ・　日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2017年度実績7演題、2019年度実績3演題））をしています。
指導責任者	緒方　篤 【内科専攻医へのメッセージ】 第２大阪警察病院は、大阪府大阪市医療圏の中心的な急性期病院の一つであり、大阪府大阪市医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。健診センターを介した健康増進や予防医療、包括ケア病棟での地域医療との連携、一般内科診療から内科高度専門医療まで幅広く内科系疾患が経験できますので、臓器にとらわれず総合的に内科診療をする力がつきます。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医12名　日本内科学会総合内科専門医10名 日本消化器病学会消化器専門医2名　日本肝臓病学会消化器専門医2名 日本循環器学会循環器専門医4名　日本内分泌学会専門医2名 日本糖尿病学会専門医1名　日本腎臓病学会専門医3名 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名　日本血液学会血液専門医3名 日本アレルギー学会専門医（内科）1名　日本リウマチ学会専門医4名 （2020年4月現在）
外来・入院 患者数	・　外来患者実数　25,847名 ・　入院患者実数　5,412名　（2019年度実績）
経験できる疾患群	・　神経系疾患ときわめて稀な疾患を除いて研修手帳（疾患群項目表）にある10領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	・　技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	・　急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会　認定教育施設 日本呼吸器学会　認定施設 日本リウマチ学会　教育施設 日本透析医学会　認定施設 日本精神神経学会　研修施設 日本アレルギー学会　アレルギー専門医教育研修施設 日本臨床腫瘍学会　認定研修施設 日本糖尿病学会　認定教育施設Ⅰ 日本腎臓学会　研修施設 日本内分泌学会　認定教育施設 日本血液学会　研修施設 日本がん治療認定医機構　認定研修施設 日本高血圧学会　認定施設 日本臨床栄養代謝学会　NST 稼働施設 日本認知症学会　教育施設 日本総合病院精神医学会　一般病院連携精神医学専門医特定研修施設

2）専門研修連携施設

大阪医療センター

開設者	独立行政法人国立病院機構
住所	〒540-0006 大阪市中央区法円坂 2-1-14
認定基準【整備基準24】 1)専攻医の環境	・　初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・　研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・　国立病院機構大阪医療センター専攻医として労務環境が保障されています。
	・　メンタルストレスに対しては管理課長が適切に対処します。 ・　ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・　女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・　敷地内に院内保育所があり、病児保育、病事後保育を含め利用可能です。

認定基準【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・　指導医は 35 名在籍しています。 ・　内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・　基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修センターを設置します。 ・　医療倫理は年 3 回開催される臨床研究セミナー内で講義され、専攻医は受講が義務づけされます。医療安全セミナーを年 14 回、感染対策セミナーを年 12 回開催し、専攻医に受講を義務づけます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・　CPC を毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・　地域参加型のカンファレンス（法円坂地域医療セミナー、オンコロジーセミナー、緩和ケアセミナー）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・　プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・　日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修センターが対応します。
認定基準【整備基準24】 3)診療経験の環境	・　カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・　70 疾患群のうち 69 疾患群について研修できます。 ・　専門研修に必要な剖検（年平均 10 体以上）を行っています。
認定基準【整備基準24】 4)学術活動の環境	・　臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・　倫理委員会（適宜開催）と受託研究第 2 審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は臨床研究推進室が担当し、受託研究第 1 委員会（月 1 回）で審査しています。 ・　日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。
指導責任者	三田 英治 【内科専攻医へのメッセージ】 　国立病院機構大阪医療センターは、大阪府 2 次医療圏である大阪市東部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 35 名 日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会専門医 9 名 日本呼吸器学会専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本神経学会専門医 1 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名 日本内科学会認定医 41 名 日本循環器学会専門医 7 名 日本肝臓学会専門医 7 名 日本腎臓病学会専門医 2 名 日本血液学会専門医 1 名 日本アレルギー学会専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名
外来・入院 患者数（内科系）	・　外来患者 年間 22,801 名（1 ヶ月平均 1,900 人） ・　入院患者 年間 15,304 名（1 ヶ月平均 1,275 人）
経験できる疾患群	・　きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	・　技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・　急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連]携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓病学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本神経学会準教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会診療施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設

大阪急性期･総合医療センター

開設者	地方独立行政法人大阪府立病院機構
住所	〒558-8558 大阪市住吉区万代東 3 丁目 1-56
認定基準[整備基準 24] 1）専攻医の環境	・　初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・　研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・　非常勤医員として労務環境が保障されています。 ・　メンタルストレスに適切に対処する施設（大阪府こころの健康総合センター)が、病院と公園をはさんで隣にあります。 ・　ハランスメント対策講習会が院内で毎年開催されています。 ・　女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・　病院と同敷地内に保育所があり、病児保育も含め利用可能です。
認定基準[整備基準 24] 2） 専門研修プログラムの環境	・　JMECC 開催要件であるディレクターが在籍しており、毎年数回講習会を開ける体制にあります。 ・　指導医は 2020 年 3 月の時点で 36 名在籍しています。 ・　専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・　医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催（2019 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 7 回、感染対策 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　CPC を定期的に開催（2019 年度実績：22 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　地域参加型のカンファレンス （病診連携カンファレンス、2019 年度実績 5 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準[整備基準 24] 3）診療経験の環境	・　カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準[整備基準 24] 4）学術活動の環境	・　日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2019 年度実績 9 演題)をしています。
指導責任者	内科専門研修プログラム責任者　林　晃正
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 36 名、日本内科学会総合内科専門医 28 名
外来・入院 患者数	・　外来患者 1、396 名（平均/日） ・　入院患者 23、649 名/年　　（2019 年度実績）
経験できる疾患群	・　専攻医登録評価システム （J-OSLER)にある内科 13 領域、70 疾患群のほとんどすべての症例を定常的に経験することができます。当センターは高度救命救急センター、三次救急および二次救急の指定医療機関であることを踏まえ、南大阪地域の救命救急の中核的医療機関として、24 時間体制で患者さんを受け入れています。従って、救命救急センターと連携して救急領域の不足疾患を経験することが可能です。また、障害者医療・リハビリテーションセンターを有して、医療と福祉の連携といった観点に立った活動も行っているため、急性期から慢性期まで幅広い疾患群を経験できます。
経験できる技術・技能	・　技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・　急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、大阪府南部医療圏における地域医療、病診・病々連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本高血圧学会専門医制度認定施設 日本アレルギー学会専門医教育施設 日本神経学会専門医教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内科学会専門医制度研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 植え込み型除細動器移植・交換術認定施設 日本胆道学会指導施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本不整脈学会専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本透析医学会認定医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本血液学会研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本感染症学会研修認定施設 心血管インターベンション学会研修施設 両室ペースメーカー移植術認定施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本内分泌学会連携医療施設

大　阪　警　察　病　院

開設者	医療法人警和会
住所	〒543-0035 大阪市天王寺区北山町 10-31
認定基準【整備基準24】 1)専攻医の環境	・　初期臨床研修制度基幹型，協力型研修指定病院です。 ・　研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・　常勤医師（特定任期付職員）として労務環境が保障されています。 ・　メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課厚生係）があります。 ・　ハラスメント窓口（人事課）が整備されています。 ・　女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩コーナー，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・　院内に病児保育室があり，利用可能です。 ・　託児手当があり，利用可能です（子が 3 歳に達する迄）
認定基準【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・　指導医は 29 名在籍しています。(2020 年 4 月現在) ・　内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長））、副統括責任者（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・　基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と内科専門医研修管理室を設置します。 ・　医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2016 年度実績 24 回、2017 年度実績 21 回、2018 年度実績 24 回、2019 年度実績 20 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　CPC を定期的に開催（2016 年度実績 13 回、2017 年度実績 19 回、2018 年度実績 14 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をあたえます。 ・　地域参加型のカンファレンス（天王寺区医師会・病院合同講演会年 1 回、臨床医講習会年 4 回、各内科診療科地域連携講演会年 5 回前後、夕陽丘緩和ケア連絡会年 3-4 回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2018 年度実績 1 回、2019 年度実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　日本専門医機構による施設実地調査に内科専門医研修管理室が対応します。
認定基準【整備基準24】 3)診療経験の環境	・　カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 10 分野）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・　70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます。 ・　専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 21 体、2015 年度実績 19 体、2016 年度実績 21 体、2017 年度実績 22 体、2018 年度実績 13 体、2019 年度実績 23 体）を行っています。
認定基準【整備基準24】 4)学術活動の環境	・　臨床研究に必要な図書室、OA ルームなどを整備しています。 ・　倫理委員会を設置し、定期的（2018 年度実績 12 回，2019 年度実績 11 回）に開催しています。 ・　治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2018 年度実績 11 回，2019 年度実績 11 回）しています。 ・　日本内科学会講演会（および内科学会ことはじめ）あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 14 題、2015 年度実績 11 題、2016 年度実績 14 題、2017 年度実績 13 題、2018 年度実績 10 題、2019 年度実績 6 題）をしています。 ・　学会等への参加は出張扱いとし、出張費を支給しています（当院規定による）
指導責任者	尾下　正秀 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪警察病院は、大阪府大阪市二次医療圏の中心的な急性期病院であり、二次医療圏・近隣医療圏にある連携施設と内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 地域医療における救急診療の要として、「断らない医療をモットー」に二次医療圏のみならず、大阪府下・近隣府県の救急疾患・急性期疾患の医療に応需しております。 内科専門医外来、ＥＲ・総合診療センターにおける外来・当直研修を通じて、初期診療に十分対応しえる医師をめざした研修を、また、高齢者医療、慢性期疾患、癌疾患などの継続的な診療など、多数の症例を経験することができます。一方、入院症例においては、入院から退院（初診・入院～退院・通院）経時的に、診断・治療の流れを経験することで、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざしていただけます。
指導医数	日本内科学会指導医 29 名　　日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器専門医 12 名　　日本肝臓学会肝臓専門医 7 名

（常勤医）	日本循環器学会循環器専門医 9 名　日本糖尿病学会専門医 2 名 日本内分泌学会専門医 2 名　日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名　日本感染症学会専門医 1 名　ほか 日本救急医学会救急科専門医 5 名　（2020 年 4 月現在）
外来・入院 患者数	・（病院全体）　外来患者 35,750 名（1 ヶ月平均）、入院患者 1,355 名（1 ヶ月平均） （うち内科系）外来患者 14,042 名（1 ヶ月平均）、入院患者　528 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	・　きわめてまれな疾患をのぞいて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	・　技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	・　急性期医療だけでなく，超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療，病診，病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門医制度認定教育病院　日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓学会認定医制度認定施設　日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会専門医指定施設　日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会専門医認定研修施設　日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本消化器病学会認定施設　日本神経学会専門医制度認定準教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設　日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設　など

大阪大学医学部附属病院

開設者	国立大学法人大阪大学
住所	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2 番 15 号
認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・　初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・　研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・　非常勤医員として労務環境が保障されています。 ・　メンタルストレスに適切に対処する施設（大阪大学キャンパスライフ健康支援センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。 ・　ハランスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスメント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。 ・　女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・　病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・　指導医は 107 名在籍しています。 ・　プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。 ・　プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 ・　医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　CPC（内科系）を基本的に毎月開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。
認定基準【整備基準 24】 3）診療経験の環境	・　カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できる症例を診療しています。専門研修に必要な剖検を適切に行います。
認定基準【整備基準 24】 4）学術活動の環境	・　臨床研究が定常的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的に開催されています。 ・　大阪大学臨床研究倫理委員会（認定番号 CRB5180007）、介入研究倫理委員会、観察研究倫理委員会が設置されています。 ・　日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	大阪大学医学部附属病院内科専門研修プログラム プログラム統括責任者、研修委員会委員長　坂田 泰史 プログラム管理者　竹原 徹郎

指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 107 名　総合内科専門医 66 名 内科学会指導医のうち、以下の専門医が定常的に在籍しています。 日本消化器病学会消化器専門医、日本肝臓病学会専門医、 日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会専門医、日本内分泌学会専門医、 日本腎臓病学会専門医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医、 日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会専門医（内科）、 日本リウマチ学会専門医、日本老年病医学会専門医、JMECC ディレクター1 名、 JMECC インストラクター12 名
外来・入院 患者数 （内科系）	・　外来患者延べ数：219,844 名 ・　入院患者数（Osaka University Hospital Annual Report 2018）： 循環器内科 1,156 名、腎臓内科 323 名、消化器内科 1,350 名、 糖尿病・内分泌・代謝内科 511 名、呼吸器内科 754 名、免疫内科 286 名、 血液・腫瘍内科 480 名、老年・総合内科 321 名、神経内科・脳卒中科 588 名 ・　内科系病床数 273 床 ・　内科剖検数 12
経験できる疾患群	・　研修手帳（疾患群項目表）にある内科 11 領域、50 疾患群の症例を経験することができます。このほか、ICU と連携して ICU のローテーション研修を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	・　技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・　急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本腹膜透析医学会認定教育研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本老年病医学会認定教育施設

大阪南医療センター

開設者	独立行政法人国立病院機構
住所	〒586-8521 大阪府河内長野市木戸東町 2-1
認定基準[整備基準 24] 1）専攻医の環境	・　初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・　研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・　国立病院機構非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・　メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。 ・　ハラスメント委員会が管理課に整備されています。 ・　女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・　敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準[整備基準 24] 2） 専門研修プログラムの環境	・　指導医は 22 名在籍しています。 ・　基幹施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・　医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　地域参加型のカンファレンス（内科学習集談会、内科系診療科分野別地域合同カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準[整備基準 24] 3）診療経験の環境	・　カリキュラムに示す内科領域 13 分野において定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準[整備基準 24]	・　臨床研究に必要な図書室、研究室などを整備しています。

4）学術活動の環境	・　倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・　治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	大島至郎
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 22 名　日本内科学会総合内科専門医 26 名 日本消化器病学会消化器病専門医 6 名　日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 1 名　日本内分泌学会専門医 2 名 日本腎臓学会専門医 5 名　日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 1 名　日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名　日本リウマチ学会専門医 7 名　ほか
外来・入院 患者数	・　外来延患者　107,228 名（平均延数 8,836 名／月） ・　新入院患者　4,966 名（平均数　414 名／月）　※2019 年度実績
経験できる疾患群	・　きわめて稀な神経疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域の症例を十分経験することができます。
経験できる技術・技能	・　技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・　急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設　日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設　日本腎臓病学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設　日本血液学会血液研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設　日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設　日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設　日本胆道学会認定指導医制度認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設　日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本 IVR 学会修練認定施設　ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本脳卒中学会研修教育施設　日本老年医学会認定施設 日本透析医学会教育関連施設　日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本臨床検査医学会認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設　日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本東洋医学会研修施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院　ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設　日本認知症学会教育施設

河　内　総　合　病　院

開設者	医療法人河内友紘会
住所	〒550-0025 大阪市西区九条南 1 丁目 12-21
認定基準【整備基準24】 1)専攻医の環境	・　研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・　メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・　女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・　敷地隣に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・　指導医が 6 名在籍しています。 ・　内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・　医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　研修施設群合同カンファレンス（2019 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　CPC を開催（2019 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　地域参加型のカンファレンス（2019年度実績地元医師会合同勉強会3回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準24】 3)診療経験の環境	・　カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器内科、呼吸器内科および循環器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。専門研修に必要な剖検を行っています。

認定基準【整備基準24】 4)学術活動の環境	・　日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2018 年度実績 1 演題）をしています。 ・　倫理委員会を設置し、不定期で開催しています。 ・　治験委員会を設置し、不定期で受託研究審査会を開催（2019 年度実績 2 回）しています。 ・　専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も不定期で行われています。
指導責任者	林 英宰 【内科専攻医へのメッセージ】 東大阪地区における中心的な急性期病院として、救急患者の受け入れを精力的に続けています。特に急性心筋梗塞や急性心不全などの循環器救急受け入れ体制が充実しています。総合内科や消化器内科に経験豊富な指導医が複数在籍しており、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く研修を行うことができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名　日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本消化器病学会消化器病専門医 1 名　日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本アレルギー学会専門医 1 名　日本超音波医学会専門医 2 名　ほか 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名
外来・入院患者数	・　外来患者 約 12,000 名（1 ヶ月平均） ・　入院患者 約350名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	・　研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、循環器内科、総合内科、消化器内科、呼吸器内科系の多数の入院・外来患者において幅広い内科治療を経験できます。
経験できる技術・技能	・　地域の急性期病院の拠点として、心筋梗塞、狭心症、急性心不全などの循環器救急患者や肺炎、腎不全、胃潰瘍、糖尿病などの代表的な内科疾患を数多く経験できます。技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・　急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会専門医研修施設　日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設など

近　畿　中　央　病　院

開設者	公立学校共済組合
住所	〒664-8533 兵庫県伊丹市車塚 3 丁目 1 番地
認定基準【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・　初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・　研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・　公立学校共済組合近畿中央病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・　メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・　ハラスメント委員会が整備されています。 ・　女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・　敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	内科学会　指導医は 19 名在籍しています。 ・　内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・　医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績各 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　CPC を定期的に開催（2019 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・　カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 12 分野（血液を除く）では定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

	・ 専門研修に必要な剖検（2017 年度 13 体、2018 年度 9 体、2019 年度 9 体）を行っています.
認定基準【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019 年度実績 5 回）しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2019 年度実績 12 回）しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	上道知之 【内科専攻医へのメッセージ】 公立学校共済組合近畿中央病院は，阪神北医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 19 名　日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名　日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名　日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名　日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 日本内分泌学会内分泌専門医 1 名　日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	・ 外来延患者数　71,958 名/年（2019 年度） ・ 入院延患者数　55,043 名/年（2019 年度）
経験できる疾患群	・ きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	・ 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・ 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本インターベンション治療学会研修関連施設　日本高血圧学会専門医認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設　日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設　日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設　日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設　日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設　日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設　など

多 根 総 合 病 院

開設者	社会医療法人きつこう会
住所	〒550-0025 大阪市西区九条南 1 丁目 12-21
認定基準【整備基準24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 隣接地（徒歩約2分）に院内保育所があり、事前手続きにより利用可能です。
認定基準【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 13 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準24】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、神経領域の分野で定常的に専門研修が可能症例数を診察しています。 ・ 専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準【整備基準24】 4)学術活動の環境	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会で年間 1 題以上の学会発表を予定しています。 ・ 専攻医が学会に参加する機会があり、論文の筆頭著者としての執筆も行われています。 ・ 倫理委員会および治験管理委員会を開催しています。
指導責任者	白石　翔一 【内科専攻医へのメッセージ】 多根総合病院は、大阪市湾岸地域の中心的な急性期病院であり、脳卒中を中心とする

	急性期医療と変性疾患などの神経疾患全般の診療を行っています。特に脳卒中に関しては、神経・脳卒中センターを脳外科と共同で運営しており、24時間365日体制で症例を受け入れています。脳外科、リハビリテーション科とも緊密な連携があり、質の高い研修を受けることができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医1名 日本病院総合診療医学会認定医1名 日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名 日本透析医学会専門医 1 名 日本臨床腫瘍学会専門医 1 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名 日本超音波医学会専門医 1 名
外来・入院 患者数	・ 外来患者12,676名（1ヶ月平均） ・ 入院患者854名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	・ 研修手帳（疾患群項目表）にある神経領域、9疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	・ 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・ 中小規模病院として、急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本内科学会認定教育関連病院 日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設 栄養サポートチーム専門療法士認定規則　実地修練認定教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度による研修教育病院 日本神経学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本泌尿器科学会基幹関連病院 日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設 日本大腸肛門病学会認定施設

西　宮　病　院

開設者	兵庫県
住所	〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町 13-9
認定基準【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 地方公務員法第 22 条第 2 項の規定に基づく臨時的任用職員として正規職員に準じた労務環境が保障されています。また公舎等の利用が可能です。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）が兵庫県庁にあります。希望者には毎年メンタルヘルスに関する健診を行っています。 ・ 院内にハラスメント委員会を設置しました。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、18 時まで保育時間を延長する延長保育を行っています。
認定基準【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 19 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績　医療倫理 2 回、医療安全 6 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2020 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2017 年度実績 12 回・12 体分、2018 年度実績 4 回・4 体分、2019 年度実績 10 回・10 体分）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2018 年度実績 41 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 12 体、2018 年度実績 4 体、2019 年度実績 10 体）を行っています。

認定基準【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・　日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2017 年度実績 3 演題）をしています。 ・　倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019 年度実績 11 回）しています。 ・　治験センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2019 年度実績 12 回）しています。 ・　臨床研究センターを設置しています。 ・　専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭演者としての執筆が定期的に行われています。
指導責任者	楢原　啓之（ならはら　ひろゆき） 【内科専攻医へのメッセージ】 　兵庫県立西宮病院は、人口が増加している兵庫県西宮市の一等地（阪神電車から徒歩 1 分にあります。兵庫県立病院の中で最も歴史が古く、チーム医療・トータルケア（全人的医療）を実践しています。兵庫県内および大阪府内の連携施設や大阪大学医学部付属病院・兵庫医科大学・関西医科大学と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。 　本プログラムは、初期臨床研修修了後に院内の内科系診療科のみならず連携施設と連携して、質の高い内科専門医を育成するものです。医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、さらに医学の進歩に貢献して国内のニーズへの貢献を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 19 名　日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器病専門医 10 名　日本肝臓学会肝臓専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名　日本内分泌学会専門医 1 名 日本腎臓学会腎臓専門医 4 名　日本糖尿病学会専門医 2 名　ほか
外来・入院患者数	・　外来患者 13、447 名　（1 ヶ月平均） ・　入院患者 10、513 名　（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	・　きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	・　技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に化学療法・肝がん経皮的治療・内視鏡治療においてはより高度な専門技術を習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・　救命救急センターと緊密に連携してドクターカー・DMAT カーを含めて超急性期症例を経験できます。また急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設　日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設　日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本臨床腫瘍学会特別連携施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設　日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設　日本糖尿病学会認定教育施設 日本救急医学会指導医指定施設　日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設　日本胆道学会認定指導施設 日本禁煙学会認定教育施設　日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本臨床腎移植学会認定研修施設　日本内分泌学会認定教育施設　など

日　本　生　命　病　院

開設者	公益財団法人日本生命済生会
住所	〒550-0006 大阪市西区江之子島 2 丁目 1－54
認定基準[整備基準 24] 1）専攻医の環境	・　初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・　研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・　日本生命病院常勤医師としての労務環境が保障されています。 ・　メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床研修部および総務人事グループ担当）があります。 ・　ハラスメント相談窓口が総務人事グループに整備されています。 ・　女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準[整備基準 24] 2）専門研修プログラムの環境	・　指導医は 21 名在籍しています。（2018 年 3 月現在） ・　内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・　医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2017 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	・ CPC を定期的に開催（2017 年度実績 19 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2017 年度実績 16 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準[整備基準 24] 3）診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
認定基準[整備基準 24] 4）学術活動の環境	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	立花　功 【内科専攻医へのメッセージ】 日本生命病院は、「済生利民」を基本理念とする日本生命済生会が昭和 6 年に設立しました。現在では 27 診療科・7 診療センター、病床数 350 を擁する大阪西部地域の基幹病院へと発展しており、予防から治療・在宅まで一貫した医療サービスの提供を目指しています。急性期医療だけでなく、慢性期医療や地域医療にも貢献できる可塑性のある内科専門医を育成し、リサーチマインドを育てます。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 21 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本内分泌学会専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本肝臓病学会専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本腎臓病学会専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本リウマチ学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名
外来・入院 患者数	・ 外来患者 367 名（一日平均） ・ 入院患者 150 名（一日平均）（2017 年度）
経験できる疾患群	・ きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	・ 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・ 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会専門医教育施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

森 之 宮 病 院

開設者	社会医療法人大道会
住所	〒536-0025 大阪市城東区森之宮 2 丁目 1-88
認定基準【整備基準24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度研修協力関連病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する相談窓口があります。 ・ ハラスメント委員会が法人本部に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、（仮眠室）、シャワー室、当直室が　整備されています。 ・ 病院近傍に関連施設の保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医 4 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。

	・　医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・　CPC を定期的に開催（2015 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準24】 3)診療経験の環境	・　カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち、総合内科、神経内科、消化器、循環器、呼吸器、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準24】 4)学術活動の環境	・　日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2016年度実1演題）を予定しています。
指導責任者	北田　修 【内科専攻医へのメッセージ】 森之宮病院は大阪市城東区にあり、355 床有する地域に根ざす第一線の病院であり、地域の医療、保健、福祉を担っております。　基幹病院の内科研修プログラムの連携施設として、通常よくみられる疾患の経験は勿論、連携の中核として、病病連携・病診連携も経験できます。 救急にも力を入れており、二次救急の対応についても充分に経験できます。　また内科専門医として必要な医療介護制度を理解し、「全身を診る医療」「医療と介護の連携」についても学ぶ研修になると思われます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名　日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本呼吸器学会指導医 1 名　日本神経学会指導医 4 名 日本消化器病学会指導医 1 名　日本消化器内視鏡学会指導医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名　日本心血管インターベンション学会専門医 1 名 救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	・　外来患者　2,883名（1ヶ月平均） ・　入院患者　189名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	・　研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、神経内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、総合内科の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	・　技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く　経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	・　急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院　日本神経学会専門医制度教育施設 日本消化器病学会認定施設　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　日本がん治療認定医機構認定研修施設

別表１　第二大阪警察病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70疾患群	56疾患群 （任意選択含む）	45疾患群 （任意選択含む）	20疾患群	29症例 （外来は最大7）※3
症例数※5		200以上 （外来は最大20）	160以上 （外来は最大16）	120以上	60以上	

※1　消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること．

※2　修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが，他に異なる15疾患群の経験を加えて，合計56疾患群以上の経験とする．

※3　外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める．（全て異なる疾患群での提出が必要）

※4　「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する．

例）「内分泌」2例+「代謝」1例，「内分泌」1例+「代謝」2例

※5　初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる．

第二大阪警察病院内科専門研修プログラム管理委員会委員リスト

（令和２年４月現在）

第二大阪警察病院

小牟田　清	（病院長）
緒方　篤	（プログラム統括責任者、委員長、アレルギー・膠原病分野責任者）
橋本　久仁彦	（内分泌・代謝分野責任者）
佐多　弘	（血液内科分野責任者）
金子　哲也	（腎臓分野責任者）
南　誠剛	（呼吸器分野責任者）
錦織　貴之	（事務局代表、臨床研修医指導センター事務担当）

連携施設担当委員

大阪医療センター	三田　英治
大阪急性期・総合医療センター	林　晃正
大阪警察病院	尾下　正秀
大阪大学医学部附属病院	朝野　仁裕
大阪南医療センター	大島　司郎
河内総合病院	林　英宰
近畿中央病院	上道　知之
多根総合病院	白石　翔一
西宮病院	楢原　啓之
日本生命病院	立花　功
森之宮病院	北田　修

オブザーバー

内科専攻医代表	＜未定＞

２０２１年度版
第二大阪警察病院
内科専門研修プログラム

令和２年11月発行

発行者：第二大阪警察病院　臨床研修医指導センター
住　所：〒543-8922　大阪府大阪市天王寺区烏ヶ辻2-6-40
電　話：06-6773-7111（代表）

© Daini Osaka Police Hospital Printed in Japan

第二大阪警察病院

DAINI OSAKA POLICE HOSPITAL